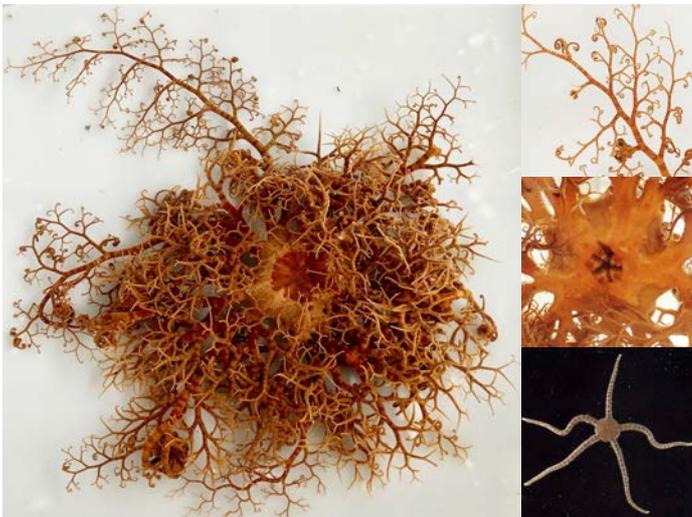


トピック まなづるの海

テヅルモヅル、三ツ石海岸に現る！



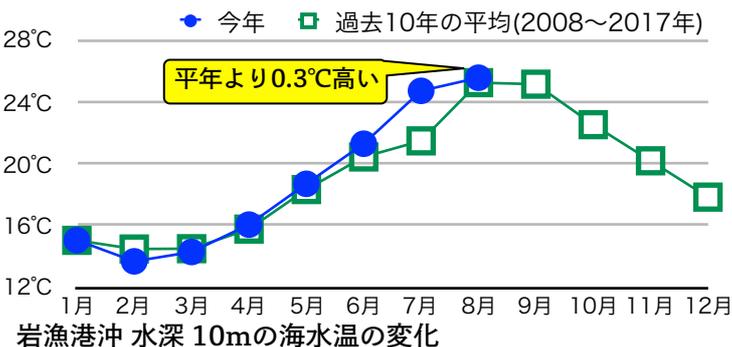
セノテヅルモヅル(左)、腕先(右上)、口(右中)、ふつうのクモヒトデ(右下)

三ツ石海岸の水深約1mの石の下から、テヅルモヅル(手蔓藻蔓)という棘皮動物(ウニ、ナマコなどが含まれる)のクモヒトデの仲間が見つかりました。クモヒトデはふつう腕が5本ですが、テヅルモヅルは腕の先が細かく分かれています。この腕で海中のプランクトンや流れてくる有機物を集めて食べているそうです。テヅルモヅルの仲間は、通常は少し深い海に暮らしており、真鶴でもイセエビ漁などでたまにかかったり、スキューバダイビングで見つかることもありますが、このようにとても浅い場所に現れるのはとてもめずらしいことです。採取された当日、ちょうど町立遠藤貝類博物館を訪れたひなづる幼稚園の皆さんにこのテヅルモヅルを観察してもらい、翌日海に逃がしました。なお、今回見つかったテヅルモヅルは、「セノテヅルモヅル」という種だと思われる。真鶴半島周辺の海底は、岩場や砂地など様々な環境があり、また、陸地から近いところに深い海もあるため、テヅルモヅルのようなめずらしい動物など、とても多様な生物が暮らしています。

真鶴の海況

8月はほぼ例年どおりの海水温に

横浜国立大学が毎月観測を行なっている、真鶴町岩漁港沖の水温は、7月に平年より3.2°C高い温度を記録しましたが、8月はほぼ例年と同じような水温になりました。海の水温はその年の気温だけではなく、海をかき混ぜる台風の有無、黒潮の流路(通常は三宅島～八丈島あたりを流れています)などの影響により、変動することがあります。短い間の高水温だけでは、温暖化とは限りません。<データ提供：横浜国立大学>



真鶴の漁獲情報

サバが盛漁期 キンメダイ絶好調

9月は台風の影響も少なく、多くの魚が取れるシーズンを迎えています。定置網では、サバが盛漁期となり、マサバもゴマサバも安定した漁獲がありました。釣りで獲れるキンメダイは水深100m前後の浅めの深さで少し小型のものがたくさん取れています。日によっては、定置網の水揚げに追いつきそうな勢いだとのこと。また、最近2m近いハンマーヘッドシャーク(シュモクザメのなかま)も定置網に入ったそうです。今回、写真で紹介するのはオアカムロ(別名：アカムロ/オアカアジ)です。毎年、真鶴でも夏から秋にかけて定置網でとれ、多いときにはトン単位ではいるそうです。大きいものは1kgくらいになるとのこと。お刺身も塩焼きも美味でした。<情報提供：真鶴町漁協>



オアカムロ

真鶴の海中の様子

サンゴイソギンチャクに住みつく幼魚たち

9~10月は海水温も高く、透明度も夏よりよくなるので、スキューバダイビングにはうってつけの季節です。岩漁港そばのダイビングスポットでは、例年秋になると、サンゴイソギンチャクにミツボシクロズメダイやクマノミ、キンギョハナダイの1cmにも満たないような幼魚が住み着きます。今年は、台風の影響でサンゴイソギンチャクがダメージを受けてしまいましたが、岩ダイビングセンターの方々が修復し、最近になってミツボシクロズメダイの幼魚が確認され始めているとのこと。今年もダイバーを楽しませてくれそうです。<情報提供：岩ダイビングセンター>



ミツボシクロズメダイの幼魚(左) クマノミの幼魚(右) いずれも昨年撮影

10月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 6日(土) 真鶴自然こどもクラブ「ミニ水族館をつくろう」
真鶴町・湯河原町の小中学生対象、詳細は博物館へ
- 8日(月・祝) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・遠藤貝類博物館【有料】
- 20日(日) 海のミュージアム「ひものづくり体験&プランクトン観察」
魚市場・里海BASE(申し込みは17日まで)【有料】

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。